

04

実装・運用方法を計画し、
AIを実際の業務に組み込め



演習⑤：本番実装・運用計画の策定

課題

開発したAIを実際の業務環境に組み込むため、以下の項目をおさえ、本番実装・運用計画書を作成してください。

但し、前提条件を揃えるため、これ以降はランキング1位のモデルをベースとし、本番実装・運用計画を検討してください。検討する上で、モデルの特性を把握するにあたっては、ランキング1位のモデルによる予測結果データと、正解データを参照してください。(ご希望の方はご自身で構築したモデルで検討いただいても構いません。解答・解説は、ランキング1位のモデルではなく、事務局にて構築した一定の精度が見込まれるモデルを使用する前提で用意をしています。)

(各データは、PBLサイトの演習⑤⑥ページのデータタブご参照)

- AI実装前後の業務プロセスの比較（下記回答の枠組みに沿って回答）
- 想定業務効果
- システム実装・運用設計(以下3項目について実施方法を整理)
 - 予測に使うデータの持ち方
 - 精度監視の方法
 - モデルのアップデート方法

解答の枠組み：AI実装前後の業務プロセスの比較

現状

各種データ
収集・整理

外部データ参照
内部データ
(POS)分析

翌月売上
予測

発注量の
確定

発注

あるべき姿



05

本実装に向け、
意思決定を勝ち取れ



演習⑥：プレゼンテーション資料の作成

課題

これまでの検討結果を踏まえ、実企業での意思決定の場を想定し、本番実装の意思決定をしてもらえるようなプレゼンテーション資料を作成してください。

- 経営会議において、30分のプレゼンテーションを実施予定という想定で、資料を作成してください。
- 30分のプレゼンテーションにおける資料の適正量は、パワーポイント10-30枚程度です。